マスダプランニング・増田幸夫社長

連載13回目はマスダプランニング・増田幸夫社長。運営する宮の森フランセスは今年で開業20周年、札幌市民憧れの結婚式場となっている。これまで約1万5000組の愛をプロデュースしてきた経営者は、現代のブライダル事情などについて語ってくれた。（次回は20日掲載予定）

青山千景がリーダー直撃

21世紀のブロンティア

増田社長と青山は宮の森フランセス教会でツーショット

♤増田 幸夫（ますだ・ゆきお）旭川市生まれ。旭川北高業後に旭川理容美容専門学校へ進む。92年、マスダプランニング初代社長に就任。家族は妻と小学４年生の長女。趣味はマラソンと海外旅行で、お気に入りの国はフランス、イタリア。

日本初 欧州の教会移設し式場に

英で運命的出合い

――走ることが大好きだと聞きました。

「100㌔マラソンの経験もあります。変わったものでは今年9月にフランスのメドックマラソンに出ました」

――どこが変わっているのですか。

「仮装してワインを飲みながら城を巡り、42㌔走る大会です。私は新選組の格好で出場。飲むからトイレも近くなるのですが、その辺のブドウ畑で…。女性もね（笑い）」

――人生でも経営者への道を走ってきた？

「そうでもありません。高校を卒業して美容専門学校へ。ヘアメークの仕事をしていました。その頃はロンドンがトレンドで、現地で活躍している友人の顔を見に渡英。そこで運命的に出合ったのが英国の教会でした」

――どんな教会でしたか。

「ステンドグラスが美しく息をのむような荘厳さにひかれました。サイズ、歴史…こんな素敵なものがあるのかと。こんな教会が日本にもあれば自分も結婚式を挙げてみたいと思いましたね」

――その感動が今の仕事をするきっかけになったのですね。

「はい。92年に日本で初めて欧州（英国）の教会を移設し、旭川に式場をつくったのが始まりです。教会が見つかるまで2年かかりました。日本人に教会式の本当の素晴らしさを知ってほしかったのです」

――資金がかかりそうですが…。

「銀行も初めは理解してくれませんでした。その当時はホテルで式もパーティーも済ますことが多く、式だけを離れた教会で挙げる人は少ないと思われたのでしょう。困っていたら両親が自宅などの財産を担保にしてくれて、やっと融資決定。本当に感謝しています」

――その後は順調？

「成功するとは思っていましたが、全国から視察が来て、施設のプロデュースもいくつか手掛けたりして自信が持てました。95年にはフランスの教会を札幌に移設。それが宮の森フランセス教会です」

――今年で20周年ですね。

「約1万5000組が式を挙げてくれました。20周年記念として、フランセスで式を挙げた方にもう一度礼拝堂で記念写真を撮ってプレゼントする企画を始めました。これを機会に結婚記念日には毎年写真をプレゼントすることにしました」

――これからの夢は？

「親子2代で宮の森フランセス教会で式を挙げてもらうことですね。20年たったので、そろそろ〝両親もここで…〟なんて声が聞けるのではないかと」

――ほかの式場と比べてアピールポイントは？

「200年の歴史を持つ教会と披露宴前に行うガーデンでのカクテルパーティー。北欧と森がコンセプトの披露宴会場も素敵ですよ。最近の若い人はサプライズ演出を好むようですが、そちらのプランニングもお任せください」

――最近、式を挙げる人が少ないようですが。

「SNS社会で、直接人と会わなくても会話ができます。便利な半面、社交の場が少なくなりました。自分のために多くの人が集まってくれるのは結婚式くらいしかありません。両親や友人に支えられていると認識する良い機会で、忘れることのできない日になると思います」

――婚活や合コンに熱心な若者たちをどう思いますか。

「いいことだと思います。相手を見つけようとする行動、大賛成です。結婚して家族を持つことで新たな幸せを見つけることができます。そして、かけがえのない人が見つかったら、ぜひフランセスで式を挙げてもらいたいですね。千景さんもどうぞ！」

♡青山 千景（あおやま・ちかげ）1986年（昭61）1月17日、札幌生まれの29歳。北海学園大卒。07年度ミスさっぽろ。TVh「旅コミ北海道」やFMノースウェーブ「カモシダサナイト」に出演中。

▽マスダプランニング 本社・札幌市中央区宮の森３条10丁目。売上高は22億8400万円（14年12月決算）。ブライダル事業のほか、ドレスショップやレストランなども経営。昨年から海外での結婚式プロデュースも始めた。